

週報

こひつじ

第40巻 38号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

鳥の巢

その三 母鳥の犠牲

母鳥は逃がしてやるべきだとのことができるのである。

ことだが、それには、もう一つ理由がある。「母鳥を去らせよ」と言われている理由は、まさにその点にある。

鳥を手で捕まえることは、通常は難しい。人の気配を感じただけで、鳥はすぐに飛び去るからだ。しかし自分の巢にひなや卵を持っている母鳥の場合は別である。捕まる道を選ぼうとしている。

母鳥は逃げないで、ひなや卵を守ろうとする。あるいはそれらを取ろうとする人間に向かって激しい攻撃をすることもあるだろう。

それが「母鳥を去らせよ」という戒めの意図であるように思われる。そういう理由から、母鳥はすぐに逃げない。ただ、おろおろして、自分の巢の近くを飛び回る。

子のために自分の命を差し出したから人は簡単に母鳥を捕獲する

美しい。同情に値する。そんな犠牲を払っている母鳥を残酷に扱ってはならないのである。

「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」(ヨハネ一五の一三)という聖書の言葉の実現がそこにあるのだから。

母鳥はただ自分の本能に従ってやっているにすぎないと言う人もあるだろう。にもかかわらず、彼女が示してくれたその美しい行為は高く評価されるべきなのではないだろうか。

四〇年近くも前になるが、新会堂が建築されたときのことだ。古い会堂を壊し、その跡地にそれは建てられることになったのだが、古い会堂は私たちにとっては母親のような存在だった。

その会堂で多くの若者たちが、クリスチャンとして生まれたのだから。私たちが長い間、雨露から守り、礼拝と交流の場を私たちに備えてくれたのもその会堂だった。何と多くの思い出をそれは私たちの心に残してくれたことだろう。

そんな建物を、粗末に扱うことはできない。そう思った私たちは、翌日には、壊されるとわかっていても、その前にみんなでせいっぱいの清掃をした。長い間、母親のように私たちをかくまってくれたこの建物に感謝の気持ちを表わしたかったのだ。それが礼儀である、みんな思った。ひとりの若者は、感謝をこめて、こんな詩さえ書き残してくれた。

「教会は、建物ではない」と、知つてはいるつもりでしたが、今、雨にうたれ、堂々としている残骸を目の前にしていると、「この建物は、教会だった」と言い残してあげたくありません。

あの時のあの決心、あの時の床に落ちた涙、私はここで神様に出会ったんです。私はここで育てられたんです。あなたの黒茶けた肌に、満開の桜はよく似合っていました。雨にぬれた緑もよく映えていた。

こうやって、じつとしていても、
時間はどんどん過ぎていつている
のですね。
「あなたはいしあわせになり、長く
生きることになる」(終)

振り返るのは、よくないけれど、
今は、とてもなつかしい。

今日の礼拝

人のために惜しみない犠牲を払
つてくれたものは、たとえそれが
建物であっても丁重に扱われるべ
きだろう。
子のために犠牲を惜しまなかつ
た母鳥であれば、なおさらのこと
である。

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

だから神は、命令してこう言わ
れたのだと思う。
逃げようと思えば逃げられるの
に、子とともに捕まる道をあえて
選ぶとする母鳥を見たならば、
その母鳥は去らせなければならな
い。彼女に危害を加えてはならな
い。むしろ彼女を丁重に扱わなけ
ればならないと。

○司会は林田はるかさん、奏楽
は吉岡裕美さん。

驚くのは、王となり、成功者と
子のために自分の命を差し出し
たり、権力者となっても、彼が人
である彼女の勇氣ある行為に私た
ちはみな敬意を表すべきなのだ。
それができない文明は野蠻だと
言われても仕方がない。そんな文
明が長く栄えることはないだろう。

○説教は第二サムエル記九章か
ら。ダビデが全国を平定して後の
こと。彼は、初代の王サウル
の子孫に恵みをほどこしたいと言
うのです。

先週の出席

○礼拝参加者は、第一礼拝が三
四名、第二が三一名、合計六五名
(男二二、女四三)。それに子ども
が五名、合わせて七〇名でした。

台湾の方がたの集会訪問

九月一九日(木)、楠団地で行な
われた台湾の方がたの集会に出席
しました。

牧師身辺

三〇人以上の、子育て中のお母
さんがたが集っておられました。

皆さんが、日本に来て、お困りな
のは、子どもが病気がつきたとき、日
本人医師の説明がわからないとい
うことです。そこで台湾の教会は、
彼らのために小児科医を派遣し、
今回の医療講演会の開催となった
わけです。

大津教会も少しでも協力できた
らと思っています。

洗礼式の案内

一〇月六日(日) 礼拝後、嘉島
天然プールで洗礼式を行います。
受洗される方は古谷良司さん、徳
永めぐみさん、徳永のぞみさん。
ほかに希望される方があれば牧師
までご連絡ください。

ひとつの教会がこれだけのこと
ができるというのは、すばらしい
ことだと思えます。参加者の多く
はまだクリスチャンではありません
が、教会が示す愛には感動され
たのではないでしょう。

この数日、朝の散歩がさわやか
です。風のあるときはやや寒かさ
を感じられ、長袖のシャツが必要
なほどです。夜明けもだんだん遅
くなり、五時はまだ暗く、空には
オリオン座が輝いています。季節
は秋から冬へと向かいつつあるの
ですね。それでも毎朝違う夜明け
の美しさをぼくは見たくて、町か
ら少し離れたたんぼ道に出かけま
す。朝の散歩を始めてもう一八年。
書斎で過ごすことの多いぼくには、
それが唯一の運動なのです。休ま
ず続けようと思います。